

「あがの介護・病院連携の会」について

あがの市民病院 地域連携センター副センター長 内科 長谷川 康太郎 先生

当院では、阿賀野市内の特養施設との連携強化のため年6回の「あがの介護・病院連携の会」を開催しています。連携上の問題点や改善に向けての方法を検討しています。最近、新型コロナに関する議題が中心です。各施設とも感染拡大を防ぐため細心の注意を払っています。病院からも感染コントロールの担当者からアドバイスを提供しています。

感染防御で大事なことは職員と入所者の健康チェックです。

来訪者については極力面会を制限し入所者との接触を避けることが重要です。不満を感じる人もいるようですが、現状ではやむを得ないでしょう。ワクチン接種が広がり集団免疫が獲得されるまでは辛抱が必要ですね。2ヶ月に1回ですが回数を重ねるごとに連携が強化されているのを感じます。



連携医療機関のご紹介

ハートフルケア阿賀野 宇山 拓郎 施設長

当施設は、国道49号線から少し離れており、静かで緑豊かな立地です。古くから安田は瓦の町として有名で、その「安田瓦」を塀の材料に使い地域の文化に調和した外観になっております。たくさんの方にお力添えをいただき、おかげさまで今年で10年を迎えます。

入居定員は54名で、お部屋は全室個室、トイレ、洗面台、電動ベッド、エアコン等も備えています。お身体が不自由な方、介護度が高い方でも介護職員が24時間常駐している為、安心して過ごしていただけます。日中は看護職員の配置もあり、日々の健康管理を行っています。

これからも安心、安全に快適で楽しみのある生活を目指し、皆様のお役に立てるよう取り組んでまいります。



あがの市民病院

スワンだより



藤森病院長が「地域医療貢献奨励賞」を受賞しました！

長年にわたり、地域医療の確保と向上及び住民の健康福祉の増進に著しい寄与・貢献がある医師として、当院の藤森勝也病院長が「地域医療貢献奨励賞」に選ばれました。

同賞は一般財団法人住友生命福祉文化財団が平成19年度に創設し、今回で14回目となります。今回全国から選ばれた6人のうち、新潟県内では唯一の受賞となりました。

藤森病院長は、昭和60年自治医科大学卒業後、県立妙高病院・県立柿崎病院など特別豪雪地帯の病院を勤務後、平成19年に県立柿崎病院の院長に就任。継続して地域包括医療ケアを推進してきました。

平成29年にあがの市民病院院長に着任後は、市と協力して「自助」に力を入れ、糖尿病教室や出前健康講座などを開催するほか、近隣の医療施設との医療機器の共同利用、在宅療養後方支援病院のシステム化、介護施設との連携の会設立による顔の見える関係性作りなどを進めてきました。

また、学会誌へ報告を行うなど、臨床的研究にも積極的に取り組み、臨床に基づいた学術活動やアレルギー学の啓発・普及にも尽力しています。長きにわたり地域医療の一翼を担ってきたことに加え、地域医療の本質である全職員による「地域との関わり」を重視し、「地域を治し、支える医療」を構築してきたことが高く評価されました。

新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たない状態が1年以上となり、明るい話題が少ない今日この頃でしたが、藤森病院長の受賞で職員一同、前向きな気持ちに立ち返ることができました。この受賞を励みとして、全職員新たな気持ちで皆様の健康づくりのお役に立てるよう、頑張っていきたいと思っております。



あがの市民病院



あがの市民病院



〒959-2093

新潟県阿賀野市岡山町13-23 代表 ☎0250 (62) 2780

Eメールアドレス syomu@aganocity-hp.com

ホームページアドレス

<https://www.niigata-kouseiren.jp/hospital/aganoshimin/>